

審議会等の議事の要旨（要点）

（基本情報）

会議名称	第13期 第5回立川市環境審議会
開催日時	令和5年11月17日（金曜日）10時00分～11時40分
開催場所	立川市役所本庁舎2階205会議室
次第	<議題> 1. たちかわし環境ブック2023について 2. 環境についてのアンケート結果（速報）について（報告） 3. たちかわ環境ワークショップについて（報告） 4. その他 ・ 次回の審議会開催日程について
配布資料	資料1 たちかわし環境ブック2023（案） 資料2 立川市の環境についてのアンケート集計結果報告書（速報） 資料3 たちかわ環境ワークショップ運営方針（案）
出席者	[委員] 上栗 優一、西澤 正明、古谷 登美、齋藤 孚彦、甲野 毅、 村田 佳壽子、山下 英俊、岡村 優子、富川 泰介、近藤 豊、 浅尾 文、田中 準也(敬称略) [事務局] 小倉 秀夫（環境下水道部長）、横塚 浩一（環境対策課長）、 名和 憲甫（環境推進係長）、佐藤 一生（環境指導係長）、 石原 光胤（ゼロカーボン推進係長）、山口 文寿（環境推進係）
公開及び 非公開	公開
傍聴者数	0人
会議結果	・ 議題1：たちかわし環境ブック2023について ご意見を踏まえ、修正を行い、内容については会長、副会長、事務局に一任となった。 ・ 議題2：環境についてのアンケート結果（速報）について（報告） ご意見を踏まえ、アンケート結果を分析し、次回審議会で報告する。 ・ 議題3 ワークショップ開催の報告を次回審議会で行う。
担当	環境下水道部環境対策課環境推進係 電話 042-528-4341

第 13 期 第 5 回立川市環境審議会 会議録

開催日時 令和 5 年 1 月 1 7 日（金曜日） 1 0 時 0 0 分～1 1 時 4 0 分

開催場所 立川市役所本庁舎 205 会議室

出席者〔委員〕上栗 優一、西澤 正明、古谷 登美、齋藤 孚彦、甲野 毅、
村田 佳壽子、山下 英俊、岡村 優子、富川 泰介、近藤 豊、
浅尾 文、田中 準也(敬称略)

〔事務局〕小倉 秀夫（環境下水道部長）、横塚 浩一（環境対策課長）、
名和 憲甫（環境推進係長）、佐藤 一生（環境指導係長）、
石原 光胤（ゼロカーボン推進係長）、山口 文寿（環境推進係）

< 議題 >

1 たちかわし環境ブック 2 0 2 3 について

事務局から、たちかわし環境ブック 2 0 2 3 について、資料 1 をもとに説明を行った。
11 月 30 日までは意見を受け付ける旨を周知した。

○委員意見（概要）

- ・特集記事の P20 で、燃やせるごみ 50% 減量の棒グラフがあるが、有料化後平成 29 年以降横ばいだが、横ばいに対する対策が必要。多摩地域でも 1 人 1 日当たり総ごみ量が少ない自治体の上位とあるが、地域によって差があるものなのか。1 位はどこか。
⇒ランキングは、手持ち資料がなく回答ができない。若葉町の清掃工場が限界に来ていて、いつ止まってもおかしくない状況であり、燃えるごみ 50% 減量を掲げてきたところ。どの市町村も、有料化して一定程度減った後それ以上はなかなか減量が進まない傾向がある。水切りによる減量等の啓発をしているが、なかなか数字として表れてこない。（事務局）
- ・補足だが、本編 P29 で燃やせるごみ量の推移が確認できる。総量とは異なるが、参考にしたい。ごみの有料化が平成 25 年からだが、その前から比較すると減ってきている。有料化時点で大きく減っているが、そこからはじわじわと減っていることが確認できる。
- ・本編でも、課題として目標を達成していないこととなっている。この先、どうすればいいのかという方針が書かれていない。市民へのやってほしいことのお願事項など、明確にこれをやってほしいというものが欲しいという声も聞かれるし、必要と思う。すぐに実行できるものがあると良いが、その記載がない意図を聞きたい。
⇒環境ブック自体が、そういった性格のものではない。特集号は、環境問題に関心を持ってもらいたい意図となっている。ご指摘の部分は、基本計画に記載する部分と思う。現状、具体的にできることを示せないが、取組方法を示さない限りは様々な数値が減ってこないと思うので、今までの取組を強化していく方針になると思う。（事務局）
- ・意図的に環境ブックには掲載せず、これからの実行計画に落とし込むということによるしいか。
⇒そのようになる。（事務局）
- ・資料が白黒だからかもしれないが、グラフや写真が見づらく感じる。
⇒印刷コストの都合上、白黒印刷となっている。ホームページ等ではカラーで掲載されている。（事務局）
- ・こちらは、学校へ配布される予定か。
⇒学校に 2 部配布している。学校の先生がパソコンで見られるように、公開羅針盤のキャビネットにも掲載している。（事務局）

- ・過去、興味のある小学生に対して話をする際に、学校の図書室に見当たらず啓発が難しかった。ぜひ、置いてもらえるようにしてほしい。
- ・特集記事について、テーマの選び方として良い流れと思う。対策についての記載があった方がいいというのは同意見である。ごみの排出量は、立川市は少ないという大きなメッセージが特集に入っていると思うが、小さく記載されているので一生懸命読まないと伝わってこないように感じた。
 - ⇒ごみ減量の担当課に投げかけ、書き方を検討したい。市としてごみの少なさが上位という位置に満足しておらず、50%減量という高みを目指しているので、有料化に踏み切った背景もあり、さらに汗をかいていかないといけないと考えている。（事務局）
- ・先ほど話のあった、ごみ排出量の地域差についてインターネット上にデータがあったので、共有する。最新は2022年度のデータだが、ごみ排出量1人1日あたりで、1位が小金井市591.1g、続いて、日野市596.0g、国分寺市で606.1g、府中市612.1g、西東京市615.3g、東大和市620.3g。その次に立川市が625.9gで7位の数値となっている。
- ・戻ってしまうが、H19～H29のグラフをパッと見ると1年で急激に減っているように誤認してしまう。よく見ると年度が飛んでいるが、この間にスペースを入れる等、工夫をしてほしい。
 - ⇒おっしゃるとおりと思うので、修正する。（事務局）
- ・特集記事はよくできているが、ネットから受け取るデータとしての活用となってしまいかねない。市役所の目線で、こういった情報やポイントがあるのか等のサマリーを作成した方が良くと思う。
 - ⇒全体のサマリーをとということによろしいか。（事務局）
- ・そうであるが、できればデータ部分のサマリーを作ることもできるといい。こちらの作成にコンサルタントは入っているのか。
 - ⇒環境ブックについては自前である。様々な部署からデータを集めて作成している。（事務局）
- ・コンサルタントが入っていれば作成もできたかもしれないが、自前ということであれば難しい面もあるかもしれないことは承知した。
 - ⇒昨年も同じ指摘があったと記憶しているが、サマリーを入れると見え方が変わってしまうと思う。後程、オープンデータとしてピックアップしていただくのは差し支えないが、環境ブックは環境ブックとして完結していると考えている。特集号も、今回は過去最大のボリュームである。今回掲載しているものも、伝わりやすいようにコンパクトに圧縮している。更なる圧縮は、発信したいメッセージが伝わりづらいものになってしまうと思う。（事務局）
- ・こちらの特集号は、一度各自治会のチェック等は受けているものか。
 - ⇒事前に見せていない。（事務局）
- ・環境ブックの立ち位置は了解した。基本計画の方にサマリーエッセンスやワークショップ等が反映されたものになるのか。
 - ⇒過去のトレンドや社会情勢等を鑑みて目標を設定し、進捗管理として活用していく。基本計画には環境ブック等の定量的データや社会情勢の背景から施策を立案していくので、環境ブック等の必要な部分を切り取って反映していく形となると思う。（事務局）
- ・環境基本計画は毎年作るものか。
 - ⇒環境基本計画は10年計画の5年改定である。事実上は5年後の見直しで、新しい目標を立てる形。令和7年度から第3次環境基本計画として新たな計画策定に向けて、ワークショップやアンケート等を現在行っているところである。（事務局）
- ・5年間のアクションプランとして、具体的な行動等が詳細に定まり、チェックしていくという理解でよろしいか。
 - ⇒そうである。参考までに、温暖化対策実行計画では、役所内の取組である事務事業編の目標はすでにあるが、今回は、市内全域の市民、事業者を対象とした区域施策編の策定をしている段階である。（事務局）
- ・情報の利活用の話になるが、冊子のみでなく元データのエクセルファイル等の生データもホームページに公開すると、2次利用がしやすいと思うので、検討してほしい。

- ・環境省でもそういったデータが掲載されているので、利活用しやすいことからぜひご検討いただきたい。
- ・全体としてボリュームのあるものになっているが、写真を入れる等して読みやすくする方が、学生にとって読みやすいと思う。立川独自の取組などのオリジナル要素があるとさらに読まれやすいと思う。画質の問題かと思うが、場所によってグラフが読みにくいので、工夫してほしい。
⇒データについては経産省出典のものもあるので、確認し調整する。本編では関心を持っていただくために、市民団体活動も紹介している。立川市の活動について認知していただきたい狙いで掲載している。挿絵もできる限り挿入したが、更に見やすくなるよう検討をしてみたい。特集については、ごみというキーワード全般の内容なので、立川市というよりも、より広いテーマの読み物としている。（事務局）
- ・事務局から 11 月 30 日までは修正可能と冒頭で説明があった。後程ご意見あれば後日お伝えいただいても構わない。
- ・P 16 にコミュニティバスについて掲載されているが、この収支率のグラフについて読み方を確認したい。
⇒おおよその数値だが、一人あたりバス運転の実費が約 500 円だが、市民負担は 180 円ほどであり、赤字の事業となっている。実際の経費に対しての収入が収支率となる。路線バスとして営業が成り立っていないが、まずは 4 割の収支率を目指す目標でやっている。コロナ禍に収支率が落ちてしまった部分はあるが、現在の収支率は 3 割ほどなので、7 割が税金による運営となっている。（事務局）
- ・解説がないとわからない部分であると思う。金額的な部分は環境に関係ないのではないかと思うので、削除してはいかがか。
⇒ルートも定期的に再編しているもので、数値として挙げるにはこういった出し方しかない。環境問題の切り口として、自家用車からの転換に寄与する部分であるが、広い意味では高齢者の移動手段として意味合いが変わってきている点で、環境問題からは変化しているという印象は持っている。（事務局）
- ・削除するかどうかについては、環境基本計画に指針があるから掲載しなければならないということか。
⇒そうである。次の環境基本計画では、違う形で掲載になるかもしれない。（事務局）

2 環境についてのアンケート結果（速報）について（報告）

事務局から、アンケートについて、資料 2 をもとに、回答の傾向などを説明した。
11 月 30 日までは意見を受け付ける旨を周知した。

○委員意見（概要）

- ・アンケート回収率が市民より事業者が少ない。事業者の方が環境意識があると思われ、回収率が高いと思っていた。前回の回収率と比較してどうだったかという点と、事業者の環境意識が実際にどうなのかという点を確認したい。
⇒事業者の回収率は、5 年前の前回は 26% で今回は 28% と 2 ポイント増加した。事業者の意識としては、P36～38 に事業者の実際の取組状況を聞いているが、「特に取り組んでいない」という回答の事業者が多く、市としての働きかけの必要性を感じている。（事務局）
- ・個人的な印象だが、市民の方が回答してくれる傾向があると思う。資料自体の指摘になるが、全体的に白黒印刷だと棒グラフの境目が識別しにくい。特に P10 が見にくい。過去の市の全体アンケートだと、カテゴリごとに縦線を引くなどの工夫があったので、見やすく作成してほしい。
⇒表については見やすくなるよう変更したい。（事務局）
- ・クロス集計が可能かの確認になるが P11 について、⑩の情報の入手しやすさの重要性が減っていることが気になる。取りたい情報が取れていない可能性があると考えられる。情報を取りやすいと思っている方とそうでない方の 2 層に分かれていると思うが、その層ごとの行動率を調べると、面白いデータが出ると思う。
一方で、P19「⑪再生可能エネルギー由来の電力（電力会社の切り替え）」について、

3.9%から9.6%まで増加している。実際に取り組んだ方たちにはどういった特性があるかをみれば、環境情報を流していく価値がある部分が見えてきやすいと思う。

年齢、性別等でひと手間かかるがいかかか。

⇒ここについては議論しているところ。70歳以上の高齢者の回答率が上がっている傾向がある。仮説になるが、設備投資面についても、高齢者は人生の先を見据えると消極的になるのではと思う。ライフスタイルも高齢者とそのほかで違うので、年齢層でクロス集計することは検討しているところである。(事務局)

- ・P19について、住宅用太陽光発電システムは、実数として増えていると思うが、アンケートのポイントは落ちているので、回答者の偏りを見なければならぬと思う。回答者属性のクロス集計をしていただければと思う。

⇒前回と比較しつつ年齢によるクロスをかけてみて、特徴的な部分があれば、さらにクロス集計をかけたい。(事務局)

- ・内容が多岐に渡り、難しいかもしれないが他に意見はあるか。
- ・中央防波堤の埋立地の見学に行った際に、子供たちが興味津々であった。子供は今、図書室からでもタブレット検索が主流であるので、たとえば「立川 ごみ」と検索した際に、検索上位に啓発情報が出てくるようにしていただくことが有効と思う。

⇒情報発信はDXのような、新たなフェーズに入ってきているので、行政情報の発信方法や入手しやすさも考えなくてはならないと思う。有効な啓発について、今後も協議し推進していきたい。(事務局)

- ・こちらについても11月30日まで意見を募ると説明があったので、後日でも可能である。この結果はホームページ上に公表予定か。

⇒ホームページに掲載予定で、さらに現在の委員の方にも配布予定である。(事務局)

- ・アンケート結果のサマリーは掲載されるか。基礎データの掲載のみか。

⇒サマリー作成の予定はない。こういったアンケートや環境ブックは位置づけとして掲載しない。(事務局)

- ・そこは理解しているところだが、サマリーは環境基本計画に入らないのか。

⇒必要な部分があれば掲載したい。(事務局)

- ・サマリーを作成しないと、これだけの作成物の何を見るのかと思うので、サマリーは必要と思う。先ほどの子どもの興味関心についてもそうであるが、サマリーを作成のであれば、誰向けに作るのかを意識しながら作成してほしい。サマリーを作成し、更に色付けし子ども向け等の刊行物を作るなどの発想があると良いと思う。

⇒繰り返しになるが、この結果すべてをもってアンケート結果として構成されていると思う。セミナーなどテーマがあるものであれば、意図的に情報を抜き取るということもあると思うが、広く情報を届けるという点では行政の立場からの発信としてやるべきでないと思う。メッセージを発信する環境基本計画の施策の中で、背景としてアンケート結果等を紹介することはあると思う。(事務局)

- ・あくまで環境基本計画、ワークショップのエビデンスとしての位置づけということか。

⇒そうである。今後何かの会議にアンケート結果を抜粋して活用することはあると思うが、アンケート結果そのもののサマリーは、これ以上要約するとメッセージ性が入ってしまうので考えていない。(事務局)

- ・こちらも二次利用は可能という事か。

⇒可能である。(事務局)

- ・エクセル等でも公開していただけるか。

⇒基本的に統計データは公開する方針であるので、可能な範囲で公開予定である。(事務局)

- ・サマリーについては主義主張の部分なので、相容れないところは致し方ないと思う。データの信憑性の担保はしないといけぬのでデータを抜き取るというような行為をしてほしいという主張ではない。環境基本計画策定時には、盛り込んでいただければと思う。

⇒こういったデータを背景として、環境基本計画では設定した目標に向けて取り組んでいくという構成を考えている。その際は、サマリーとしての部分を抜き出して色付けして施策を展開していく予定である。何かセミナー等を開催する際は、こういったデータを利用し、活用していきたい。(事務局)

3 たちかわ環境ワークショップについて（報告）

事務局から、ワークショップについて資料3により開催目的、運営方針、実施日程などを説明した。

○委員意見（概要）

- ・参加者数や特性を確認したい。
⇒市民ワークショップについては、40代3名、残りは60～80代で合計約20名である。（事務局）
- ・説明の中で学生については市外の住民とあったが、市民の参加は難しかったか。
⇒7月に市内の高校や市外の連携している大学の先生にお願いに上がったが、立川市民のフィルターをかけるとほぼいなくなるので、市民であることが望ましいが、今回はフィルターとしなかった。（事務局）
- ・小学生のこども委員は決まっているか
⇒こども委員会はすでに動いており、ジェンダーや多様性についてのテーマもあるが、一つのグループがごみをテーマに活動している。（事務局）
- ・子どもについてもすごく熱心で、参加者も増えていると思う。そういった人たちが中学、高校生になったときに関心を持ち続けてほしいと思う。
⇒おっしゃっているのはエコチャレンジのことと思うが、そういった子たちがどの段階で興味が薄れるかは分析しきれていない。親御さんを巻き込んで取り組むのが有効なのかなという感想である。（事務局）
- ・ワークショップのお知らせは、子どもたちに届いていないということか。
⇒今回は年齢を16歳からとしている。義務教育を終えて知識も蓄積されているところで、線引きをしたのが背景である。アンケートの対象年齢を16歳として100名弱の10代の方に送付したが、そこからの参加はなかったのが実情である。（事務局）
- ・今の学生は、昔に比べて習い事や学習塾などで忙しい印象を持っている。学校のプログラムとしてあれば参加者はいると思うが、そうでなければ興味がそそられないと中々参加してもらえない印象がある。
- ・今からの参加は難しいか。小学生向けの活動をしているが、その中に空気、環境に興味を持っている子がいる。今回の審議会に参加するまで情報を感知していなかったが、推薦による参加もピックアップしていただければと思う。
⇒今回は16歳以上がターゲットであり、小学生の参加は難しい。こども委員会での活動も一つと思う。（事務局）
- ・こども委員会の所管は
⇒子ども育成課である。テーマ別で見ると、ジェンダーが8名、ごみ問題が7名参加している。7名の内訳として、小学校4年生3名、6年生が2名、中学1年生が1名、高校3年生が1名となっている。（事務局）
- ・今回は16歳以上ということで、小学生の参加は難しいが、参加者が少ないことは今後の課題と思う。興味関心のある小学生を逃しているという側面もある。参加者の連絡先等は入手しているか。
⇒登録の際に聞き取っている。（事務局）
- ・個人情報になるので、扱いは難しいが、今後情報発信をしてもよろしいかの同意を得て、今後に繋げていくことも重要と思う。
⇒個人情報になるが、事前に今後のご案内について明示し同意を得る方法は可能と思う。（事務局）
- ・そういった対応も検討いただければと思う。
- ・小学校には美化委員もあり、リサイクルなども行っており、興味は出てきている印象である。小さい段階から普及啓発していけばいいと思う。
- ・学生は時間がないと話があったが、忙しい時間を割いてでも参加していただけるような、モチベーションの上がるものであると良いと思う。
⇒今回のワークショップ参加者やアンケート結果を見ても、年齢層が高い傾向があるのは承知している。定年後で時間がある層が参加しやすいというのが実情であると思う。若年層の参画は課題と感じている。アンケートに回答していない方の意見をどう吸い上げていくかも考えなければならない。結果として参加者が高齢になってしまっ

たが、それでも今後施策の検討は進めなければならないので、様々なツールを活用して施策形成に参加していただくよう努力したい。(事務局)

- ・総合政策部のワークショップでは、大学生10名以上、20～30代等も多くみられたので、何かノウハウがあるのだと思う。個人的な感想だが、大学生の意識が変わってきており、マイノリティではなく社会について考えてNPOなどへの参加をする学生は増えている印象がある。そういった層を掬っていく方法を検討してほしい。
⇒総合政策部のワークショップの件は承知している。そちらも市民のみの参加ではないと承知している。参考にしつつ募集したが、こういった結果となった。総合政策部のワークショップは政策全般だが、こちらは環境のみのテーマなので、参加が難しい側面があったと思う。(事務局)
- ・大学生は何人参加か
⇒15名程度である(事務局)
- ・交通費なども支給せずにそれだけ参加があるのであれば、投げかける層や場所を選べばもっと参加していただけたと思う。

4 その他

○次回の環境審議会について

令和6年2月15日を予定している。現環境基本計画の評価と次期計画に向けた方向性についてを議題にするほか、学生ワークショップ、第一回市民ワークショップの様子を報告できればと思っている。

○立川市ホームページについて

立川市ホームページのトップページに、市長がポーズをとっている部分がある。ここをクリックすると、ごみ分別ダンスのYoutube動画に遷移する。ぜひ見ていただきたい。

以上